

桑名文化協

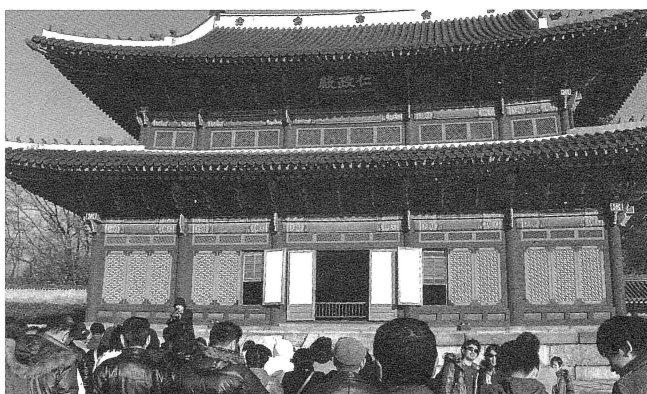
平成21年 3月15日
第 25 号
桑名市文化協会
桑名市中央町 2丁目37
TEL 24-1361
<http://bunkyo-kuwana.jp/>

ソウル・春川（チュンチョン）への旅

社会文化部門 西羽 晃

昨年十二月二、五日、桑名市文化協会と韓国・春川市文化協会との親善交流が主目的の訪韓に参加した。ソウル・水原・利川・春川、いずれも一度は訪れた処である。ソウルへは六度目であり、大した期待もなく、空を飛んだ。

ところが予想は見事にはずれた。まずソウルで初めて見た「昌徳宮」の壮大さに圧倒された。日本語でのガイドが約一時間二十分かけて案内してくれる。ソウルには五つの古宮があるが、現存している最大の宮殿であり、世界遺産になっている。その近くにある宗廟（李朝王家の歴代位牌を祀っている処）も世界遺産である。いずれも火災で焼失した所や日本が破壊した部



ソウル 世界遺産 昌徳宮・仁政殿

分もあるが、見事に復元している。有名な景福宮も復元の途中である。先日焼失した南大門も、すぐさま

三重県文化奨励賞を 受賞されました



文化協会会員の
山本翠松さんが、
伝統漆工芸の優れた
功績を認められ、
三重県文化奨励賞を受賞されまし
た。

に復元の動きがある。

春川はソウルからバスで約二時間ほど。ドラマ「冬のソナタ」で一躍有名になったが、今回の旅は冬ソナは全く関係なし。まず訪れた金祐貞の生家と記念館。彼は日本では知られていないが、素朴な農村文学者である。その近くの錦屏初等学校（小学校）を訪問。全校児童が八十人ほどの小さな学校であるが、全国の初等学校サムルノリ（韓国舞踊）大会で優勝したそう、体育館で披露してもらった。熱の入った演技で、子どもとは思えない。昨夏四日市市へ訪問する予定があったが、竹島（独島）問題で中止になったとか。教室を参観。各人の机にはパソコンが備えられ、先生の横には大画面が置いている。黒板は使わなくてよいらしい。韓国では初等学校一年生から英語教育をしているとか。

他にも色々と印象深く、親切な人々に出会えて、実りの多い訪韓であった。カムサハムニダ。



金屏初等学校での記念撮影



金祐貞記念館（春川文化協会の方たちと記念撮影）

新春六華苑祭

茶席よもやま話

茶華香道部門

白木 宗弘

六華苑祭が一月十七・十八日と催され、表千家も離れ屋にて茶席を担当いたしました。六華苑祭であり、多人数の来客者があり嬉しいしだいです。担当側も一服のお茶と言えども、おこなう趣旨、場所、季節と趣向など考え道具組みをします。たいへんな事ですが、それだけにやりがいのある一日です。

席中では、御点前をし、お茶をさし上げましたが、お客さんも作法通りにされる方、また無難作にいただく方と色々でした。点前にも一つ一つの意味が有ります。それを理解していただけたらと思います。

着物姿の女性や子供教室の小中学生の方、一同そろって来ていただき、大人と子供が触れ合い、席中、笑顔がたえぬ場もあり、世代を越えて楽しむとは、正にこのことで、まことに有意義な催しでした。



皆様方も一度日本古来の茶道に関心を持ってみてはいかが。箏曲や舞踊など楽しみ、一服の茶をいただく、このいつときが今の時代に必要でないでしょうか。さすが文化の桑名です。

市民芸術文化祭を終えて

「美術部門展」

美術部門

深貝 龍舟

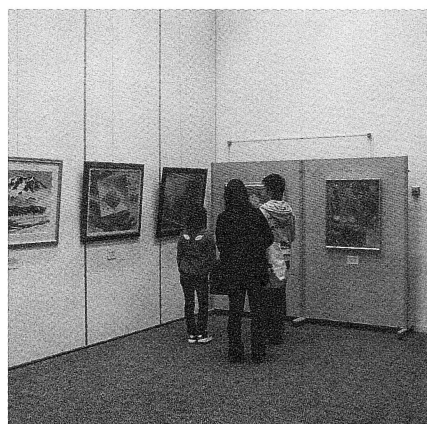
(ぐるうぶ雑創)

メディアライヴでの美術部門の展覧会が開かれるのも五年目を迎えました。搬入・作品展示も馴れてきましてスムーズに運び、早くから展覧していただきました。出展者の方々は、一二九名ほどで横ばいですが、会場が入り易いのか、入場者が昨年以上に増えまして、観る人に感動を与え、桑名市民の文化の高さを感じていただけたかと思っています。ただし、新春六華苑祭の、番蔵への入場はさっぱり、閑散として寂しいかぎりではと感じてきました。

文化協会の会員皆様方は、本当にレベルの高い芸術家が沢山おられるのですから、各部門の交流を盛んにして、垣根を越えたコラボ作品などがあってもいいかなと思いました。

又、展示の順番を変えることに

よって、少しは雰囲気も変わり、新しい創造が生まれるかもしれません。言う事は易い、難しい作業が増え、大変かもしれませんが、今は、チェンジチェンジですよ。



『ロスタイム』

演劇部門

今 枝 由 佳

(劇団すがお)

今年の桑名市民芸術文化祭・演劇部門は、市民会館小ホールにて『ロスタイム』を上演いたしました。

人生を終えた主人公が、若い頃の自分に戻りバラバラになった家族との絆を取り戻していくストーリーだったのですが、主人公を始め登場人物の誰かしらに自分を当てはめ笑い、涙されるお客様が多かったようです。

特に、認知症になった妻と主人公がお互いに「今までありがとう。」と言って別れる場面が一番感動したという声が多く、普段身近にいる家族に感謝の言葉を伝えたいとおっしゃっていただきました。劇中で「当たり前だと思っていたことは、実は一番大切なことだったんだ。」と主人公は気付きます。私的な話ではありますがお芝居を見に来てくれた友人に、主人公は亡くなってから家族のありがたさに気付いたけれど、今を生きる私たちでも気付くことができる

よねという感想を聞きました。

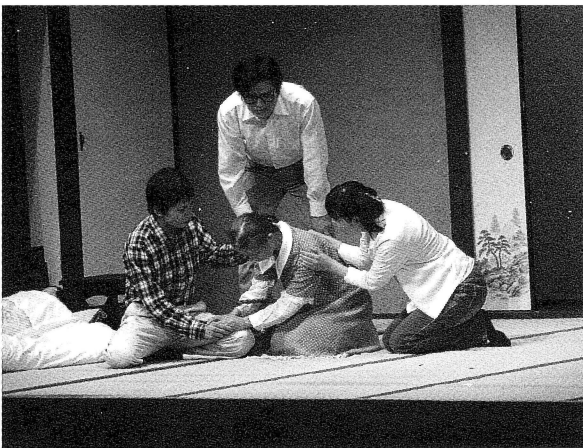
少子高齢化が進む中、家族の繋がりやの薄さが問題視されていますが、身近な人に一度「ありがとう」と言ってみてはいかがでしょう。

今回、2日間の公演でしたが、

1日目のお客様が2日目にご友人・ご家族を連れて再度お越しいただけるといったことが多々ありました。プロではない、決まらずにうまく

もない役者たちが演じる芝居でも、お客様の心に残る何かを感じていただけることはとても嬉しく、上演して良かったと思いました。

演劇は誰にでも楽しめる文化活動です。ぜひ一度観劇・又は演技手としてご経験されてみてはいかがでしょうか。



新春懇親会

芸能Ⅲ部門

郡 アサ子

(フイ・フラ・オ・レイアロハ桑名支部)

一月十七日(土)桑名市文化協会の新春懇親会が桑名シティホテルで開催されました。

桑名市文化協会の方々が韓国を訪れて、交流の様子をスライドで拝見させて頂き、ご活躍の事色々解りました。私も含め一人一人が文化協会の参加意識を持って、活動を続ける事が、発展に少しでも貢献できるのではないかと心を新たにしました。

最初の頃の懇親会を予想して各部門沢山の方々が参加されている



と思い、二年ぶりに参加させて頂き今回の参加人数に少し驚きました。毎回出席してみえる人も今年は少ないねと驚いてみました。来賓に教育長、教育部長、四日市市文化協会、(株)東員町文化協会の方々をお招きしての懇親会なので申し訳なく感じました。アトラクションもフラダンスの一組だけでしたが、各部門色々活動はあります。各部門色々活動はありますが、来賓をお招きしての行事には一人でも多くの人が参加協力する事は大事な事だと思いました。

これからも文化協会のますますの発展と御活躍を願っております。

平成 21 年度 月釜・華道展日程表

と き 午前 10 時～午後 3 時 30 分
 ところ 六華苑 離れ屋（月釜） 番蔵棟（華道展）
 前売券 700 円（入苑料込） 当日券 500 円（入苑料別）
 4 月 18 日（土）は、県民の日のため入苑料は無料となります。

開 催 日	茶道担当流派	華道担当流派
平成 21 年 4 月 18 日（土）・19 日（日）	煎 茶 松 風 流 （ 18 日 の み ）	勅使河原和風会
5 月 17 日（日）	裏 千 家	MOA 山月光輪花
6 月 21 日（日）	表 千 家 流	草 月 流
7 月 19 日（日）	遠 州 流	石 田 流 池 坊 サークル
9 月 20 日（日）	松 尾 流	竹 真 流
10 月 18 日（日）	裏 千 家	小 原 流
平成 22 年 1 月 17 日（日）	遠 州 流	華道展はありません
2 月 21 日（日）	表 千 家 流	未生流中山文甫会
3 月 21 日（日）	松 尾 流	いけばな池坊

桑名市文化協会育成補助金の募集のお知らせ

桑名市文化協会では、桑名市の芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して補助金を交付します。つきましては申請される方を募集します。

◎補助対象団体等

文化協会の個人及び団体。ただし、平成 21 年 4 月 1 日をもって、桑名市文化協会に在籍一年以上の会員。

◎補助金の額

事業企画実施に要する交付対象経費の 80 % 以内の額で 30 万円を限度とする。

◎応募の方法

文化協会事務局（教育委員会文化課内）で申請書類を受け取り、同事務局へ申請する。

◎応募受付期間

平成 21 年 3 月 9 日（月）～ 4 月 10 日（金）
 （平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日の実施事業分）

◎申請の制限

平成 19 年度・20 年度に補助金を受けた会員は交付申請できない。

★お問い合わせ

桑名市文化協会事務局（桑名市教育委員会 文化課内）
 ☎ 0594（24）1361

北勢地域文化団体 交流懇親会に参加して

副会長 今村和子

春まだ浅い二月七日に北勢地区文化協会の交流会が本年度は東員町の係で梅の香り芳しい北勢町の阿下喜で開催された。

北勢地区の文化協会全員にお誘いをされたそうだが、残念なことに、例年通り四協会の参加にとどまった。

各協会からの現状報告がなされて、その後に問題点が提起され、各協会ともなかなか問題が解決できないでいるようだ。当協会のいいところは、市からの予算が創設当時と変わっていないこと、また事務局を市側が引き受けていく

れるので、助かっているところなどである。

また、問題点は合併から五年もたつのに、いまだ長島町・多度町の公民館活動の文化祭との一体化が進んでいないところなどである。

そして今年度から、文化祭の一環行事として長島町の公民館での社会文化部門の活動、また三月中旬のふれあい交流会 in 多度の開催等の報告をした。

結果はまだ出ていないが、両町の方々に桑名市文化協会の活動に関心を持っていただき、入会をしていただけるように努力をしていることに評価をいただけたと思う。その後の懇親会でも、話題はいかにして協会を運営して行ったらいいかという議題に尽きたと思う。アツという間に時間が過ぎ、東員町の副会長さんの帯に咲く梅の花に見送られ各自帰途に着いた。



交 流 会 に て

短歌

一楓・山城顕彰短歌
小・中学生短歌部門

金雀枝短歌社

岩花 キミ代

散髪屋はさみの音におどる髪かが
みの中でぼくがでてる

精義 鈴木 諒

階段を登っていると聞こえるよま
だそろってない鼓笛の新曲

長島北部 横村 杏優

お祖父ちゃんねむるお墓に話しか
けまた来るからねとお花を供えた

在良 笹木 海里

家に来るひいおばあちゃんに気付
いたら庭の草取りわたしもやるね

藤ヶ丘 上平川 茉莉

運動会家族の応えん背中おす六年
間の最後の走り

城南 桑原 真由

春の朝きもちがいいな母さんと洗
たく物をたくさん干した

城東 佐藤 恵

空のむこう入道雲見とおどろいた
つつこみそうな飛行機一つ

立教 坂 幸恵

夏の道みんなえがおでおはようと
山に向かってあいさつをする

久米 伊藤 啓夢

教室のせん風機の風外の風習字の
作品ゆらゆらゆれる

日進 金田 一楓

夕暮れに兄と二人で帰る道秋の空
にもとんぼが二匹

益世 折野 勝哉

ちっぽけなわたしを見下ろす大仏
さんありんこ来たと思って笑ふ

立教 加藤帆乃果

まどぎわの私の席に吹いてくる涼
しい風が教科書めくる

日進 林 可奈子

たまに見る親父の背中が大きくて
いつか越えたいそのたくましき

陽和 本田 大地

雨が降りカラフルな傘広げるとし
ずんだ気持ち明るくなつてく

光陵 井上阿里紗

カレンダーめくってみればあじさ
いが初夏のたよりを届けています

多度 鈴木 望里

何気ないふとした一コマおさめて
る私のカメラと私のこころ

光風 板谷 祥奈

たんすからTシャツ取り出し思い
出す家族で行った夏の旅行を

陵成 矢田 愛乃

雨上がり雨が残した葉の上のしず
くにうつる小さな世界

津田 工藤 真子

こわいんだ本当の事いわれるの痛
い言葉に逃げてる自分

成徳 柴田なつみ

折り鶴よ届けておくれこの気持ち
和紙の背中に思いを乗せて

明正 日比 春華

二児の母ほえむ姉の横顔はなん
て優しく輝いている

正和 松岡 美有

本塁へ煙をあげてすべりこむみん
な息のむラストイニング

長島 清水 慎司

秋の日のコンクールに向け歌いつ
ぐ三小節目のすこし危うく

加藤 成子

床蒔きのキャベツの苗を移植する
秋雨の湿り程よき朝

石川富士子

地下道の口にヤッホーのこゑひび
きやがてリュックの児ら走り出づ

服部ふさ子

諍いの種が芽を出すその前に立ち
去る術を猫に学ぼう

斎田 眞希

汚染米不正転売の記事載りし新聞
に包む朝採りゴーヤ

水谷 郁子

金雀枝会員短歌

手回しよく夕餉の支度整へて一人
宇治への旅に出で立つ

西羽加代子

ポストにもコウノトリをあしらっ
てここよりの文幸せになる

三林 牧子

一人減り二人減りして陽の沈む待
合室に名前呼ばるる

内藤みち子

豹柄を身にまとふればしなやかに
脚前に入るそんな気がして

加藤よしみ

ふるさとの海が昔に還るなら私も
十五に還ってみせる

佐藤 清江

事故米の騒がしき中この地区の米
の出来ばえ口々に言う

伊藤さくえ

窓を打つ音のかそけし九十三の母
が呼ぶかと時雨の外見る

上田 順子

銚色の濃さの増しつつ果実酒の杏
子は実の皺ふかめゆくなり

高橋 典子

エコバックまだまだ吾には浸透せ
ぬ五円のカードしぶりつつ出す

伊藤美咲子

孫たちの帰りしあとの部屋隅にど
んぐりのコマのひとつこがる

伊藤 紗代

文化の香りたかく

文学部門 短歌 松井 久雄

創刊一一一年を迎える「心の花」は、全国歌会を宮崎の地で開きます。桑名文協の会員にしてみらっていることをうれしく思っています。

〈クルクル工房〉

クルクルとその名も楽しわが街のくるくる工房ごみを資源に

野菜くず鯖の頭も一次処理モミ種ふって庭にためゆく

さばかれし三尾の鯖のうつろな眼三角あたまのなおもまん中

鶏の骨しじみ蛤こなしゆく 二次処理クルリ 堆肥くださる

軒端の洗濯物からたつ湯気をふしぎふしぎと見とれていたり

正月の三日というにわが庭のつつじの樹上蚊柱のたつ

クルクルと汚物は肥料に変わりゆく種微生物いのちある今日

この夏は「ぜひ宮崎で」の賀状うれし ああ桜島 心の花は

俳句

俳句サークル

あやめ会この一年

あやめ会 立花 正厚

昭和43年5月、中央公民館の俳句講座として発足以来41年が経過する。当あやめ会は三重県に馴染みの深い山口誓子先生の流れを汲む石井いさお先生を講師として、毎月第2火曜日の午後、中央公民館において句会を開催している。

講師の石井いさお先生（俳人協会幹事）は、若くして山口誓子先生に師事し「天狼」に入会、平成16年には俳誌「煌星」を創刊、主宰しこの度5周年を迎えた。

毎月の句会はその季節に沿った兼題をテーマに、選句、合評及び講師の講評を行っている。昨今、俳句同好の人たちの高齢化と趣味の多様化に加えて、公民館施設の受益者負担などもあって会員の減少傾向にあるのはいささか寂しい限りである。

当あやめ会では、毎月の句会とは別に吟行を行っている。その折の特選並に高得点賞は次の通りである。

「花見吟行」分

城下町ふはりと羽織る花の雲

奥野 裕子

城山の山ゆるぐ花吹雪

佐野 芳子

花吹雪風の白妙とどまれり

長谷川 宏

花筏離合集散定めなし

伊藤 文郎

手話会話弾む万朶の花の中

鵜飼みつる

9月には東員町の猪名部神社や木村記念館「幽静館」などを吟行し、東員町勤労者会館において句会を行った。

「特選並びに高得点賞」は

七岳の空一枚や刈田晴

菊田 真佐

上げ馬の坂吹き上げる稲田風

伊藤 文郎

天高し上げ馬の道一直線

杉丸 君子

この神社住処としたり青葉木菟

宮田 實

初句会は桑名シティホテル（紫雲の間）で開催した。「特選並高得点賞」は次の通りである。

激動の世微動だにせず初日出づ

梶間 茂子

初詣一万本の鳥居かな

宮田 實

あかあかと鶏冠ふくれり初天神

早川 恵子

天空の画布塗り尽す寒夕焼

伊藤 文郎

「入選」は

初景色洋上富士の動かざる

根来 毅

手の白き札所の巫女や初参り

伊藤 博子

真っ新の風をあつめて武将風

長谷川 宏

金銀の水引結ぶ飾炭

奥野 裕子

初松籟聞くや千本松原に

佐野 芳子

巨樹老樹なべて神の木初社

伊藤かおり

産土の神に賜はる屠蘇の盃

辻 文子

暫し手をかざす篝火年移る

野中 博宣

神滝の流れに御降り降り込めり

鵜飼みつる

シャンパンや夫婦静かな屠蘇気分

寺本美和子

一の鳥居ここから伊勢路初日の出

伊藤ふさ子

今年もや爽やか大河初日の出

徳山 久枝

遠きほど心に懸かる初便り

根来 和子

園児らも二礼二拍手初詣

立花 正厚

初日の出水平線を躍り出づ

杉丸 君子

散り敷ける歩道の落葉杖さばく

清水 幸子

看板を降ろせば替はる去年今年

余郷美智子

四方清め神に感謝の去年今年

三宅富美子

くつきりと鈴鹿連山雪姿

加藤美江子

年賀状だけのえにしも五十年

梅原 幸吉

牛後たる性こそ良けれ年女

菊田 真佐

神鈴のよく響きたる初詣

堀田 綾子

おみくじの花の咲きたる初詣

谷貝 純子

明けの星煌めく年の新たなり

木村 晴雄

伊勢の海昇る陽光天照す

伊藤 正義

.....

出初式水のオーロラ空に掛く

(主宰) 石井いさお

川柳

揮毫雑感

くわな川柳会

木原 広 志

百歳を迎えたご婦人から、「賀寿の祝いに親しい人へ色紙を差し上げたいが揮毫の作法を教えてほしい」との質問をうけた。

後期高齢者の私の回りに年寄りが多いがこの質問へ教示できる顔は見当らない。思案のあげくてん刻をしている知人を介し先生に聞いてもらい、ことなきを得た。

昨今、詩歌を嗜む人も揮毫をしなくなつた。

揮毫は日本の文化だと私は思う。

一昨年、名古屋市文芸祭の折、「受賞の記念に審査員の色紙を賞状と渡したい」と揮毫を提案したところ全員から拒否をされたことを耳にした。

岩手県北上市にある日本現代詩歌文学館(歌人篠弘館長)では全国の詩人、歌人、俳人、柳人へ揮毫を依頼、一年間常設展示をされ作品は展示後永久保存される。

本年は十一回、「食卓と詩歌」がテーマ、縁あって参加し、(食べることだけが得意な割ぼう着)を文学館へ送付した次第。

毎年全国各地から数十名、平成十三年には百二十名の記録がある。長生きはするものだと思う。

寺本 三郎

傷心を癒す河面の水の彩

本棚を上げ余命をいとおしみ

瀬古 博

年金が俺の財布に長居せず

図にのって甘えた膝を外される

梶 泰栄

控え目に胸を張ってるFカップ

福耳を泣かし続けるイヤリング

川瀬 秋廣

うちの猫わが家の家計熟知する

俺よりも品格のある犬散歩

水谷 真

減反で鋤も錆びつくすきま風

血税を無駄に流したインド洋

真田 五市

木枯しも後期の文字に強く吹く

健康法バナナ屋だけが元氣者

森 繁生

奈落まで落ちて気がつく旨い水

また崩す積木に明日はきつとある

清水 健吾

先進の機器に無縁となって生き

人生を解約したい時もあり

木原 広志

紅させば女盛りがまだ残り

和解する男同志に酒がいら

現代詩

一枚の写真

現代詩やまぶき

安 田 治 三

プロ級のカメラマンが写真を見て

やさしくおじいさんにたずねた

「これはすごいですな」

と、ひどく感動したあとに

「何で撮られましたか?」

すかさず、おじいさんは

大きな声で得意気に元氣良く

「カメラです。」

「.....」

しばし沈黙のあと

「どんなレンズで?」

ためらう事もなくおじいさんは

「丸いやつまあるいやつですよ」

またもや

「.....」

プロ級のカメラマンは頭痛を覚え

「どんな?」

氣持ちを抑え成るべく冷静に聞くと

「ちょっと重いやつですよ」

かなり自信を持って答えた

プロ級のカメラマンは

話を立て直したかった

そして原点にもどって

「どんなカメラですか?」

言葉はかなり丁寧で優しくかった

「黒い四角いやつですよ」

おじいさんは自信に満ちていた

プロ級のカメラマンは

常に形容詞で返ってくる回答が

苛たしかった

そして平静にもどったかった

もうこれで最後にしたかった

そしてゆっくりと

「何処で買いましたか?」

祈りに近いものがそこにはあった

おじいさんも何かを

感じたのか ゆっくりと

「カ・メ・ラ・屋・さんで」

「.....」

おじいさんはいつも正しかった

プロ級のカメラマンは

ぽかぽか陽気の

春の日差しが

今日はとても憎かった

二人を見ていたのか

カラスが二羽

頭の上を飛んでいった

桑名ええとこ再発見

社会文化部門

大河内 浩

(個人会員)

楽翁公百年祭記念宝物館

旧桑名市街東部の九華公園内に
ある鎮國守國神社の境内に「楽翁
公百年祭記念宝物館」があります。

楽翁とは、江戸時代中期の老中と
して寛政の改革を主導し、後に文
政六年(一八一三)桑名移封となっ

た松平定信のことです。文政十二
年五月十三日に亡くなった後、守

國大明神の神号を贈られ、先祖松
平定綱(鎮國大明神)とともに鎮

國守國神社として祀られました。

昭和三年(一九二八)定信没後
百年祭にあたり、旧桑名城の本丸

二之丸一帯が九華公園として整備
され、その記念事

業として計画され
たこの宝物館は昭

和九年五月に完成
しました。鉄筋コ

ンクリート造り二
階建てで、一階を

石積風とし、二階
には柱や長押型を

表現するなど和風



楽翁公記念宝物館

の意匠が加えられ、中には楽翁や

松平家ゆかりの楽器・装束・模型
類や、古地図・古文書といった郷

土資料など二千数百点が収められ
ています。

国指定重要文化財「集古十種版
木」や県指定文化財「松平定信像」

もあり、昨年三月には西船馬町の
蔵前祭車庫とともに登録有形文化

財として登録されました。毎年五
月二・三日の同神社祭礼に開館さ

れますので、金魚祭・つつじ祭に
合わせての見学はいかがですか。

ご賛助いただいております

特別会員様

光精工株式会社様

日頃のご協力に對しまして、深く
お礼申し上げます。

平成20年度新入会員

(9月・2月)

○加藤 由貴子

個人会員(彫型画)

○前田 直樹

個人会員(彫刻)

○太田 セツ

個人会員(洋画)

○山口 典久

個人会員(フルート)

○イ・フィオリ(コーラス)

代表 宮田 恵子

○桑名オペラ協会(オペラ)

代表 東川 史治

第17回総会のご案内

日時 平成21年5月10日(日)

午前10時から

(受付午前9時30分から)

会場 桑名市大山田

コミュニティプラザ 中会議室

☆各部門から代議員の選出をしていた
だきます。詳しくは、各部門長から
連絡します。

事務局移転のお知らせ

桑名市文化協会事務局(教育委員会
文化課内)は、事務所を移転しました。
移転先: 市役所本庁舎2階(エスカレー
ター上がってすぐ左側)
住所、電話・ファックス番号は今まで
と同じです。

編集後記

昨年の激変から、今年も景気の回
復が不透明のようです。厳しい経済
状況の中で「桑名市民芸術文化祭」
「新春六華苑祭」(一月十七日、十八
日)が盛大に打ち上げられました。
各部門のご活躍、熱演により桑名市
民の皆様方に感動と勇気を与えてく
れました。沈滞した世相を「芸術」
「文化」によって打開できればと思
います。

今後は、桑名市文化協会のなお一
層の発展を祈念しております。

(水谷 真)

広報担当副会長
委員 文学部門

森 一蔵

美術部門

木原 広志

音楽部門

(水谷 真)

芸能I部門

深貝 龍舟

芸能II部門

荒尾 尚美

芸能III部門

渡邊 法子

演劇部門

尾崎三千男

社会文化部門

加藤 周子

茶華香道部門

今枝 由佳

趣味教養部門

大河内 浩